

中学受験の言ってしまうがちな NG ワード

命令	<p>子どもが何かするように、またはしないように言います。 自分の思うとおりに子どもを動かそうとします。 聞く耳をもたずに命令ばかりしていると、子どもはうんざりして反抗的な態度をとるようになります。</p> <p>「勉強しなさい！」 「早く宿題やっちゃいなさい」 「いましてゲームをやめなさい」</p>
非難	<p>子どもの態度や行為を非難したり、批判したりする言いかたです。 親から否定的な評価をされると、子どもは自分に自信が持てなくなります。また、「自分だってそうじゃないか」と親に口ごたえをするようになります。</p> <p>「毎日2時間勉強するって言ったよね？」 「こんな問題も解けないの？」 「何回言ったらわかるの？」</p>
提案	<p>提案やアドバイスは、一見すると良い方法のように思われます。 しかし、親がいつも解決策を教えてあげていると、自分では考えようとせずに、親に頼るようになります。 そして、この解決策が失敗すると、親のせいになることがあります。</p> <p>「夜勉強する気になれないなら、学校帰ってからすぐにやれば？」 「問題集を毎日5ページやることにしたらどう？」 「間違えた問題は、次間違えないように必ず解き直しをしたら？」</p>
詰問	<p>「なぜ？」「どうして？」と理由を聞いたあと、その回答を「良い」または「悪い」でジャッジしようとしています。 矢継ぎ早に質問攻めにされると、子どもは責められているように感じ、口を閉ざして黙ってしまいます。</p> <p>「何で勉強しないの？」 「どうして遊んでばかりいるの？」 「成績が上がらないのはどうして？」</p>
侮辱	<p>人格、性格、能力などを否定するような言いかたです。 人格を否定するような言葉は、子どもの心を傷つけ、「自分はダメな子だ」と自分自身に悪いイメージを持たせてしまいます。</p> <p>「勉強するって口ばかりなんだから」 「宿題やるって言ったのに、約束を守れないウソつきね」 「あなたってほんとにいいかげんよね」</p>
ごほうび	<p>喜びそうなものを与えて、子どもにやらせようとしています。 親はよく言ってしまうがちですが、効果が続くのは、ごほうびをあげているときだけです。ごほうびがなくなると、とたんにやらなくなってしまいます。</p> <p>「模試で偏差値60点以上取れたら、ゲーム買ってあげるね」 「塾のテストで5位までに入れたら、好きなもの買ってあげるよ」 「来月Aクラスに入れたら、おこづかいアップしてあげる」</p>

<p>罰</p>	<p>「○○しないと、××するからね」と罰を与える言い方です。 子どもを脅すような言葉かけは、子どもを恐がらせてしまうだけです。 また、恨みや怒りの原因を作ってしまいます。 「ゲームをやめないと、1週間使用禁止にするからね」 「勉強しないなら、塾やめさせるよ」 「テストで70点以上取れなかったら、おこづかいはナシね」</p>
<p>激励</p>	<p>子どもを励ますことは良いことだと思われがちですが、子どもは親の期待に応えようとして、無理をしてしまうことがあります。 思わぬプレッシャーを与えてしまったり、応援されないといけないようになることがあります。 「あなたなら絶対に難関校に合格できるわよ」 「一生懸命勉強すれば合格できるからがんばって！」 「大丈夫、とにかくがんばろう！」</p>
<p>比較</p>	<p>子どもが親にされて一番イヤなのは「他の子と比べること」と言われるほど、影響のある声かけです。 「自分はダメな子だ」と自己否定したり、比べられた相手をよく思えなくなってしまう。 「Aちゃんは、この間の塾のテストで1番だったんだって」 「Bくんって、学校に行く前、1時間勉強しているそうよ」 「お兄ちゃんはもっと勉強していたわよ」</p>